



京都府・京丹後市

環境循環都市を目指す京丹後市がEV車向け充電ステーションを整備

京都府・京丹後市は、「市民総幸福のまちづくり推進条例」の制定や再生可能エネルギーを活用した環境循環都市の推進など先進的な取り組みで知られており、政府が進める地方創生に向けた地域再生計画の一環として、市内にEV（電気自動車）タクシーの導入と充電ステーションの整備を進めている。

その充電ステーションに太陽光発電や蓄電池、災害対策BOXを備えたKCCSの「ソーラーサイクルステーション for EV」が採用され、市内の道の駅や温泉施設で稼働を開始した。



(右から) 京丹後市 中山 泰市長
KCCS エンジニアリング営業本部 開発営業統括部 事業部長 服部 達幸

背景

- 再生可能エネルギーを地産し、地域産業で活用する循環型グリーン経済社会形成の取り組みを推進
- 地域再生計画における公共交通空白地でのEVタクシーの運行と充電インフラ整備の必要性

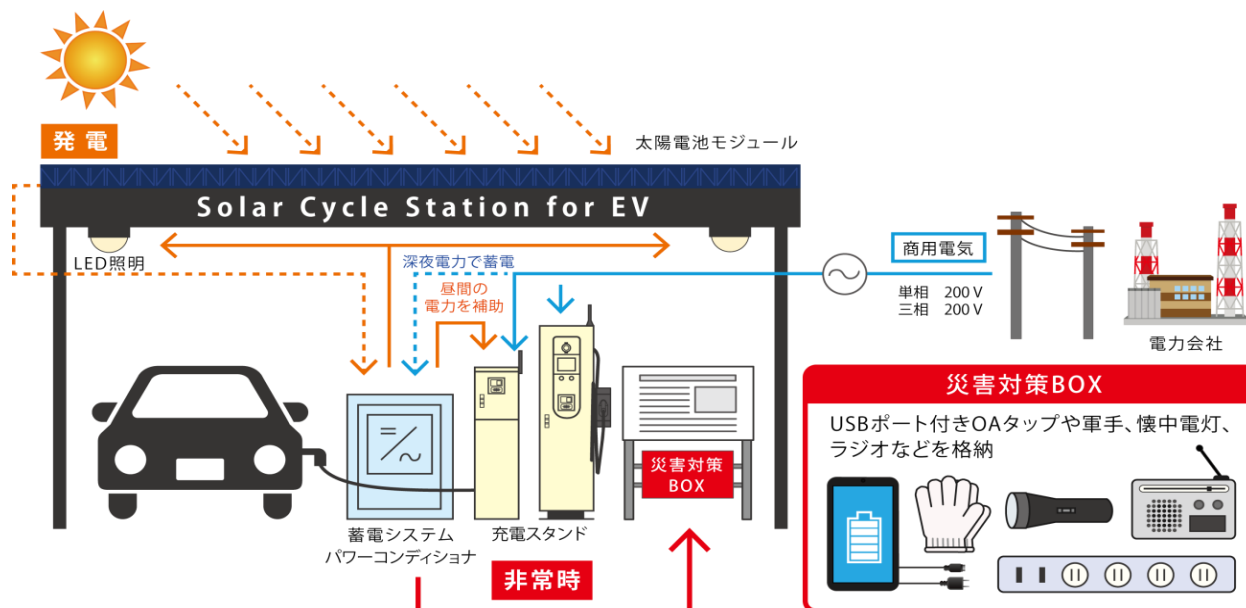
選定のポイント

- **再生可能エネルギーを効率的かつスマートに活用できる充電ステーション**
- **非常用電源として利用でき、EV、蓄電池とあわせて災害対策として活用可能**
- 立地条件を考慮した設計・施工

導入効果

- 地域住民や観光客のEV車利用の促進
- 道の駅を拠点とした**滞在型周遊観光の促進と地域経済の活性化**への期待
- 公共交通の利便性向上

■ 充電ステーション概要図 ■



背景

「人と自然の元気力」を掲げ、グリーン経済を推進



日本海を望む京都北端部の丹後半島に位置する京丹後市。「人と自然の元気力」を掲げ、再生可能エネルギーの導入を積極的に推進している。「環境にやさしい再生可能エネルギーを地産し、地域産業で活用することで製品の付加価値を高め、温室効果ガスの削減と地域経済の循環を図

る環境循環都市づくりを進めています」と京丹後市の中山 泰市長は循環型グリーン経済社会形成の取り組みについて話す。例えば、京丹後市エコエネルギーセンターでは食品工場などから排出される生ゴミを原料にしたバイオガス発電事業を実施。発電した電力の売電に加え、バイオガスを

取り出す際に発生したメタン発酵消化液を肥料として農業に利用している。

また地方創生の一環として地域再生計画に取り組んでおり、公共交通空白地でのEVタクシーの運行と充電ステーションの導入を行っている。京丹後市 農林水産環境部 環境バイオマス推進課課長の上田 雅彦氏は「地域再生計画の立案段階からEVタクシーの導入を検討してきました。また、国では充電設備を補助する次世代自動車インフラ整備促進事業を進めており、EVタクシーの導入とともに充電ステーションの整備に取り組んでいます」と述べる。

選定のポイント

災害対策BOXを備えた充電ステーションを配置

京丹後市では充電ステーションの整備にあたり、再生可能エネルギーの利用と効率的な活用、災害対策などを要件に事業者を募った。KCCSは充電器・蓄電システムのメーカーや施工会社とジョイント企画を提案。市の審査を経て採用された。

KCCS エンジニアリング営業本部 開発営業統括部 事業部長 服部 達幸は「京セラとKCCSが共同開発した『ソーラーサイクルステーション for EV』は、太陽光発電システムで発電した電力で電気自動車やPHVの充電を行う環境配慮型の充電ステーションで、京丹後市様の『再生可能エネルギーの利用』という要件に合致していました。また東日本大震災で多くの被災者が携帯電話のバッ

テリーがなくなり困っている光景を目の当たりにしたことから、災害時の非常用電源として携帯電話やスマートフォンを充電できる『災害対策BOX』の設置を提案しました」と説明する。

さらに、日本海に面する京丹後市は冬に雪が積もるため、充電ステーションの屋根はあえて傾斜をつけず、落雪から利用者を守るように設計され



ており、KCCSがこれまで太陽光発電システムの設計・施工で培ってきた経験やノウハウが活かされている。

充電ステーションは「道の駅くみはまSANKAIKAN」、「道の駅 てんきてんき丹後」、「宇川温泉 よし野の里」の市内3カ所に設置された。京丹後市 農林水産環境部 環境バイオマス推進課 環境総合係長 宇野 浩嗣氏は「市では観光拠点施設を災害時の避難場所として有効活用できないか検討しており、KCCSの非常時の電力供給や災害対策BOXを含めた提案を評価しました。また多くの観光客が訪れる道の駅に設置することで、PR効果も期待しています」と話す。

今後の展開

充電ステーションのインフラ整備で街の活力を生み出す

充電ステーションはEVタクシーのほか、住民や観光客のEV車の充電に利用されている。「充電ステーションには急速充電器と普通充電器を設置していますが、急速充電器でも充電には一定時間を要します。充電中に道の駅やよし野の里の売店で買物や食事を楽しんでいただくことで、観光と地域経済の活性化も期待できます」と上田課長は期待する。今回の事業は、EVタクシーの普及推進のための充電施設の整備や、太陽光発電による充電ステーションのスマート化などが主な目的だが、「インフラを整備することにより、市民が環境にやさしいEV車を安心して購入でき、観光客がEV車で訪れても安心して市内を移動できます。充電ステーションは街の活力を生み出す起

点になると期待しています」と中山市長は話す。

京丹後市の地域再生計画では、「ヒト」「モノ」の流れをつかむ観光振興も掲げており、道の駅を観光拠点とした滞在型周遊観光の促進や訪日外国人旅行者の取り込みに積極的に取り組んでいる。「観光客が滞在し、市内を周遊してもらうためには、電動レンタサイクルなどの導入も検討材料になります。今後も市に役立つ情報提供や提案をお願いしたいですね」と宇野係長は述べる。

KCCSは今後も充電ステーションの提供にとどまらず、再生可能エネルギーを活用して次世代の環境循環都市づくりを推進する京丹後市のニーズに応える提案を続けていく考えだ。



- ① 道の駅 てんきてんき丹後
- ・急速充電器1台
 - ・普通充電器1台



- ② 道の駅くみはまSANKAIKAN
- ・急速充電器1台
 - ・普通充電器1台
 - ・太陽光発電(3.2kW)
 - ・蓄電池(7.2kWh)
 - ・災害対策BOX



- ③ 宇川温泉 よし野の里
- ・急速充電器1台
 - ・普通充電器1台
 - ・太陽光発電(3.2kW)
 - ・蓄電池(7.2kWh)
 - ・災害対策BOX

※ 充電器はネットワーク認証で運用されています。

本事例の詳細は ⇒ <http://www.kccs.co.jp/case/1506/index.html>



京セラ コミュニケーションシステム株式会社

随時セミナー開催!

詳しくは <https://www.kccs.co.jp/events/index.html>

KCCSカスタマーサポートセンター

フリーコール 0120-911-901

携帯電話・PHS・IP電話など 050-2018-1827

受付時間 平日9:00~17:00

(17:00以降のお問い合わせは自動応答になります。)

KCCSホームページ <http://www.kccs.co.jp/>

E-mail: kccs-support@kccs.co.jp